

令和3年度京都府日本型直接支払制度支援委員会の概要

- 1 開催日時：令和3年9月8日（水） 13：30～15：40
- 2 開催場所：リモート
- 3 出席者：
【委員】 星野委員長、柏尾委員、中尾委員、中村委員、藤原委員、松尾委員
【事務局】 別添のとおり
- 4 議題：
(1) 多面的機能支払交付金における中間評価について
(2) 中山間地域等直接支払交付金に係る棚田加算の目標について
- 5 内容：
(1) 多面的機能支払交付金における中間評価について

○委員からの主な質問・意見

- ・ 農村環境の保全・向上について数値的に評価が低い項目についても、しっかり取り組んでいる組織はあり、「有機農業」や「小学生と生き物調査」など、行っている取組を具体的に記載してもよいのではないか。
 - ・ 維持はできているが強化はできていないという説明があったが、維持するということは大変なことであり、今までどおりでは、できないことを新たな活動に取り組むことで、何とか続けているということであり、維持することをネガティブに捉えすぎなくてもよいかと考える。
 - ・ 実施状況による効果は高く、自己評価が低い結果が多い。交付金による事業効果が発揮されていないととれるが、活動組織の自己評価が低い背景をどうとらえているか。
また、自分たちの地域は柵を整備したが、隣接地域の柵が壊れておりそこからイノシシなどが入るとい話もあり、広域化などにより、取組の効果が高まる改善策を検討してほしい。
- 自己評価については、調査方法の影響もあるが、交付金の取組だけですべての課題が解決されるわけではなく、より高みを目指すということは評価が低く結果と考える。

- ・ 農地を維持することが本交付金の意義であり、面積が拡大していることはよいことであるが、6次産業化やブランド化、地域活性化にまでつなげることは本交付金だけでは難しいことから、他の施策との横連携を促進することが必要。また、本交付金を通して農地の維持に取り組む中で、事務を行う人がいなくなるという問題が起きていることから、きめ細やかな支援やフォロー体制の充実を今後の取組方針に記載すべきと考える。
- ・ 自然災害の復旧について、近年の天候の変化を考えると、本交付金の取組を働きかけることにより効果が発揮する余地があると考え。「効果が薄い」だけでなく、そういった可能性の部分も記載してはどうか。
→ 交付金の効果をより発揮させる余地・可能性を評価書に追記したい。また、今後の取り組みの参考にしていきたい。
- ・ 田舎ならではの風習の違いによって、広域化が困難な地域もあり、広域化だけではなく、それぞれの地域の実情にあった方策の検討も必要と考える。市町村による格差もあると考えられるので、地域の実情をくみ取れるよう市町村へのフォローや働きかけも必要と考える。また、事務の簡素化は求める声も多く是非とも進めてほしい。
- ・ 交付金の効果の発現状況のうち、京都府独自の取組について「特になし」としているが、「京力農場プラン」や「農地集積」を記載してはどうか。
→ 府として効果を測る独自の指標は設けていないこと、また目標も定めていないことから「なし」としている。
- ・ 今後、積極的に府独自の取組も検討してほしい。

(2) 中山間地域等直接支払交付金に係る棚田加算の目標について

○委員からの主な質問・意見

- ・ 上世屋と松尾東野は令和2年度から令和6年度、毛原は令和3年度から令和6年度とあるが、加算は既に交付されているのか。
→ 令和2年度分は交付済、令和3年度分はこれから交付になる。

- ・ 指定棚田地域は他にもあるが、これらの地域は棚田加算を受けないのか。
→ 京都市は取組内容や目標の話し合いを進めているが、コロナの影響で合意形成には至っていない。将来的には取り組みたいとのこと。その他は棚田加算を受けるには至っていない。

- ・ 最初の事例は大事になる。年額については、毎年この額が入るという認識でよいのか。
→ そのとおり。

- ・ 上世屋、松尾は過去から京都府が手厚く支援をしてきた地域であるが、今回の棚田加算で状況を変えられるのか。これまで何が足りなかったのかなどワークショップ等で確認する必要があると考える。また、棚田を保全することは大事ではあるが、保全につながっていくのかという点は疑問である。
→ 人口・高齢化などかなりきびしい地域ではあると認識している。上世屋の新規就農者1人確保という目標は妥当と考えているが、その目標に向かって具体的にどのような行動をしていくかという点も含めて、地域機関である広域振興局や宮津市と協力し指導、伴走を行っていきたい。また、目標達成できなければ加算金返還であるので、目標達成に向けてのフォローはしっかり行いたい。

- ・ 実現できる可能性はあるか。
→ 移住者増など、地域の外から入ってきた人たちの協力などが必要であるが、松尾東野についても宮津市と協力して達成をフォローしたい。

- ・ 活動計画は市町村単位で作成するのか。
→ 指定棚田地域の単位で市町村を含んだ協議会が作成することになっている。

- ・ 新規就農者確保など、達成の見込みをヒアリング等で確認を行い、計画実効性を現地の方が持っているかを判断することが大切と考える。
→ 目標達成に向けどのように活動されているか、来年度が中間年評価となるので、

そこで指導、アドバイスをしていきたい。

- ・ 妥当性という点を判断したいが、上世屋の新規就農者1名確保については心配が残るところだが、可能性は十分チェックしていると考えてよいか。

→ よいと考える。

- ・ 松尾・東野集落は目標を低くしすぎると補助金に値するかどうか、という問題もあるがその点は問題ないでよいか。

→ 異議なし。

- ・ 毛原の農泊の目標設定は、件数や人数を設定しなくてもよいのか。

→ 棚田加算については定量的な目標を定めることとなっている。今回は新たに始める、と理解をしておき、制度上可能と考えている。

- ・ 取組の定義が何を指しているのかわかりにくく、現在取組は0回という書き方が間違った印象を与えるため、現状の書き方を工夫すべき、と考える。

→ 現状と将来への展望、取組目標を対外的に説明できるよう、指摘の数値目標も含め再度検討を集落に依頼する。